

SCB SHINKIN
CENTRAL
BANK

金融調査情報

2019-28

(2020. 2. 17)



信金中央金庫

SCB 地域・中小企業研究所

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7
TEL. 03-5202-7671 FAX. 03-3278-7048
URL <https://www.scbri.jp>

株式会社セブン銀行の第4世代ATM「ATM+」について

視点

キャッシュレス化の進展などを見据え、昨年来、メガバンクや地域銀行の間でATM戦略を見直す動きが加速している。信用金庫についても利用状況などを勘案した店内・店外ATMの総台数削減、稼働時間の短縮、機能の再設定などがみられるようになった。

その一方で、コンビニATMの台数増および機能拡充が目立つ。全国に25,000台のコンビニATMを展開するセブン銀行は、現金の入出金といったキャッシュポイントとしてのATM設置から社会生活全般のプラットフォーム化に取り組んでいる。同行が2019年9月にリリースした第4世代ATM「ATM+」（エーティーエム プラス）は、AIや顔認証機能といった最先端の技術を搭載することで、活用の幅を広げていく見通しである。

そこで本稿では、セブン銀行のコンビニATMについて、現行の第3世代ATMの特徴と、最新の第4世代ATM「ATM+」を中心に紹介する。

要旨

- 昨年来、ATM戦略を大きく見直す金融機関が増えている。信用金庫においてもATMの総台数削減や稼働時間の短縮などがみられるようになった。
- 25,000台を超えるコンビニATMを全国展開するセブン銀行は、2019年9月以降、最先端の技術を盛り込んだ第4世代ATMへの入替えを開始した。
- 同行の第3世代ATM（現行機種）の特徴的な機能・サービスを挙げると、①多言語対応、②スマートフォン対応、③資金決済事業者などとの提携がある。
- 最新の第4世代ATM「ATM+」は、既存のATMを超える機能・サービスを盛り込むことで、社会生活全般のプラットフォーム化を目指す。

キーワード

ATM戦略、店内・店外ATM、コンビニATM、プラットフォーム化

目次

はじめに

1. A T M戦略を見直す動きの加速
2. セブン銀行の概要
3. 第3世代A T M（現行機種）の特徴
4. 第4世代A T M（A T M⁺）の登場

おわりに

はじめに

キャッシュレス化の進展などを見据え、昨年来、メガバンクや地域銀行の間でA T M戦略を見直す動きが加速している。信用金庫についても利用状況などを勘案した店内・店外A T Mの総台数削減、稼働時間の短縮、機能の再設定などがみられるようになった。

その一方で、コンビニA T Mの台数増および機能拡充が目立つ。全国に25,000台のコンビニA T Mを展開するセブン銀行は、現金の入出金といったキャッシュポイントとしてのA T M設置から社会生活全般のプラットフォーム化に取り組んでいる。同行が2019年9月にリリースした第4世代A T M「A T M⁺」（エーティーエム プラス）は、A Iや顔認証機能といった最先端の技術を搭載することで、活用の幅を広げていく見通しである。そこで本稿では、セブン銀行のコンビニA T Mについて、現行の第3世代A T Mの特徴と、最新の第4世代A T M「A T M⁺」を中心に紹介する。

1. A T M戦略を見直す動きの加速

昨年来、A T M戦略を大きく見直す金融機関が増えている。メガバンクの三菱U F J銀行と三井住友銀行は、2019年9月から店舗外A T Mの共同利用（他行A T M手数料の一部無料化）を開始した¹。店舗ネットワークの抜本的な再編成に取り組む一部の地域銀行では、数年をかけて店外・店内A T Mの大幅な台数削減策を打ち出している。また、第二地方銀行の東京スター銀行のように自行所有のA T Mの一部を、セブン銀行に委託する事例も出てきた²。

その一方で、信用金庫は顧客利便性を維持するためA T Mの効率化に消極的だったとされる。実際、2001年以降の信用金庫のA T M総台数をみると、19,000台の後半で推移しており、地域銀行などに比べ効率化で遅れがみられる³。

¹ 三菱U F J銀行および三井住友銀行のニュースリリースを参照

² 東京スター銀行のニュースリリースを参照

³ （一社）全国銀行協会「決済統計年報」を参照

しかしながら、日本銀行による長短金利操作付き量的・質的金融緩和（マイナス金利政策）を背景とする採算・コスト意識の高まり、キャッシュレス社会の進展による中長期的なATM稼働率の低下予想などから、足元では店内・店外ATMの総台数削減や稼働時間の短縮、機能の再設定などが進み始めた。

一例として、2019年12月末の信用金庫の店外ATM設置台数は4,280台となり、前年同期から2.9%、131台減少した。信用金庫別では、①増加が30金庫、②増減なしが138金庫、③減少は75金庫となった（図表1、店外ATM未設置の14金庫を除く）。なお、増加30金庫のなかには、店舗統廃合後に店外ATMを設置する事例もあり、必ずしも拠点数の増加を目的とした店外ATMの増強ではない可能性もある。

（図表1）信用金庫の店外ATM設置台数の増減（18年12月末→19年12月末）
（単位：金庫、%）

分類	金庫数	割合
増加	30	12.3
2台以上増加	6	2.4
4台以上増加	2	0.8
増減なし	138	56.7
減少	75	30.8
2台以上減少	40	16.4
4台以上減少	17	6.9
合計	243	100.0

（備考）1. 未設置の14金庫を除く。
2. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

今後、2021年度に予定される500円硬貨の改铸、2024年度に予定される1,000円・5,000円・10,000円紙幣の改刷に向け、信用金庫の間でも効率化を前提にATMの見直しが加速すると予想される。

2. セブン銀行の概要

メガバンク、地域銀行、信用金庫の多くがATMの効率化を急ぐ一方で、コンビニATMを全国展開するセブン銀行の台数増・機能拡充が目立つ。

東京都千代田区に本社を置くセブン銀行は、異業種からの新規参入による新設銀行として、2001年4月に設立された（図表2）。一般に流通系銀行や新形態銀行とも呼ばれ、ATM手数料を主な収益源とする。

同行誕生の経緯は、『コンビニエンスストア内にATMがあれば便利』とのニーズからであり、2019年9月末時点で全国のセブンイレブンを中心に25,000台を展開する。

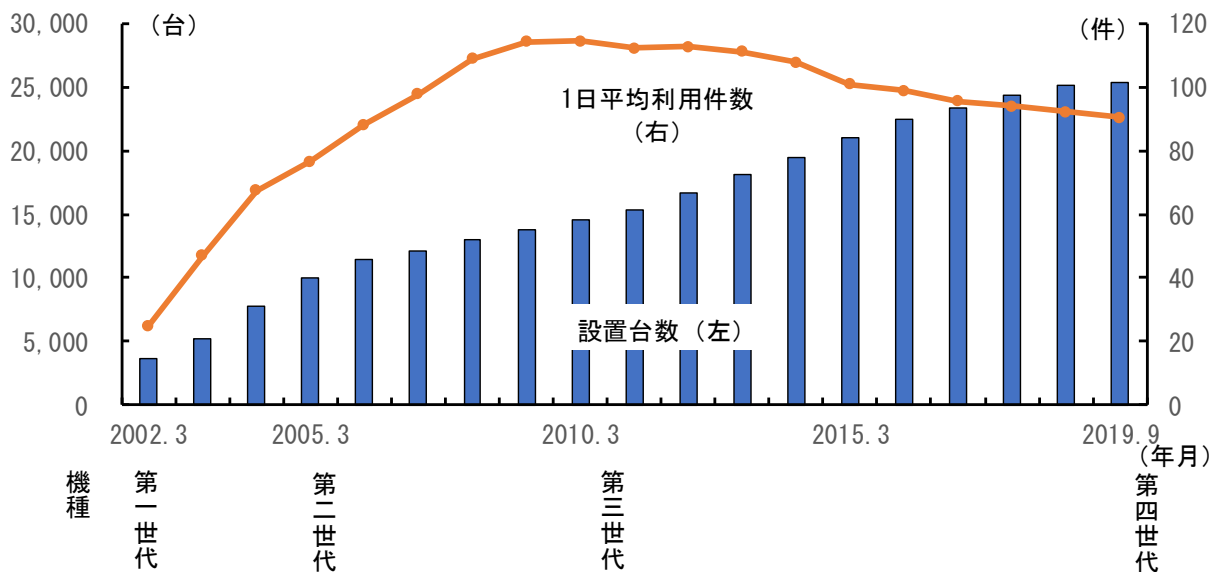
（図表2）セブン銀行の概要

名 称	株式会社セブン銀行
本 社 所 在 地	東京都千代田区
設 立	2001年4月10日
開 業	2001年5月7日
資 本 金	30,701百万円
従 業 員 数	471人

（備考）2019年9月末

コンビニATM設置台数の増加に加え機能面をみると、開業時の第1世代ATMから進化を続けており、2005年7月に第2世代ATMが、2010年11月には第3世代ATMが登場し、入替えが進んだ(図表3)。さらに2019年9月には既存のATMサービスを超越する最新の第4世代ATMがリリースされ、2020年夏のオリンピックを控えた東京都内から入替えが始まっている。

(図表3) セブン銀行ATMの設置台数と1台あたり1日平均利用件数の推移



(備考) 図表3、4ともにセブン銀行公表資料より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

ATM1台あたりの1日平均利用件数は、競合を含めたコンビニATM設置台数の急速な増加などから近年、伸び悩みがみられる。こうしたなか同行では、交通系電子マネーや資金決済事業者などとの提携拡大で利用件数の伸長は可能だと考えている。

以下、同行のコンビニATMについて、現行機種(第3世代ATM)の特徴および最新の第4世代ATMの機能・サービスなどについて紹介する。

3. 第3世代ATM(現行機種)の特徴

(1) コンセプト

第3世代ATMの開発コンセプトは、「ATMの究極化」であった。既存ATMの機能は全て盛り込むと同時に、故障などの障害発生率も限りなくゼロに近づけた。一般にコンビニATMは、スペースの限られるコンビニエンスストア内に1台設置を基本とする。そのため、障害や現金の過不足の発生を抑えることが求められる。同行の第3世代ATMの稼働率は、監視センターの拡充に加え、ATM内の現金カセットを3個から5個に増やし現金オペレーションの効率化を図るなどし、99.98%を誇る。

(2) 主な機能・サービス

第3世代ATMの主な機能・サービスを挙げると、①多言語対応、②スマートフォン対応、③資金決済事業者との提携などがある。

① 多言語対応

同行のATMサービスは、多言語をカバーする。同行顧客が海外送金サービスを利用するため、ATM取引画面を9言語対応としている(図表4)。また、訪日旅行客の増加などに対応できるよう、2015年12月に海外発行カードのATM画面や明細票を12言語対応に拡充した。

(図表4) 9言語に対応するサービス

- セブン銀行口座のATM取引画面
- 口座の取引状況などが確認できる「通帳アプリ」
- 海外送金サービスを便利に利用できる「海外送金アプリ」
- 顧客窓口となるカスタマーセンター

(備考) 9言語は、日本語、英語、タガログ語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、インドネシア語、タイ語

② スマートフォン対応

同行のコンビニATMは、同行を含む金融機関の預金口座やキャッシュカードがなくてもスマートフォンで現金の入出金などを行える。そこで同行は、2018年1月に送金・決済サービスを行う子会社の株式会社セブン・ペイメントサービスを設立し、5月より「ATM受取サービス」を開始した。同サービスは、企業から個人への送金を、同行ATMとセブン-イレブンのレジなどを介して原則24時間365日受け取ることが可能なサービスである。わかりやすく言えば、企業が個人に現金を渡す際、口座番号が不要な(口座への振込みを行わない)仕組みと言える。

通信販売の返品時の返金、在宅ワーカーへのアルバイト代の支給、少額の保険金の支払い、就職セミナーに参加した学生への交通費の支給など、現金での支払いや振込みではない仕組みとして導入企業が増えている。

③ 資金決済事業者などとの提携

同行は、2017年8月から資金決済事業者との提携を進めている。キャッシュレス化が進展するなか、現金のチャージニーズなどを取り込んでいく考えで、交通系電子マネーに加え、足元では提携先の「PayPay」や「LinePay」などの利用が伸びている。今後も提携先の拡大を目指すと同時に、日本型キャッシュレス社会のなかで活躍余地を広げていきたいとしている。

4. 第4世代ATM（ATM⁺）の登場

（1）コンセプト

セブン銀行は、2019年9月に最先端の第4世代ATMをリリースし、既存の第3世代ATMから入替えを開始した。第4世代ATMの開発コンセプトは、第3世代ATMの延長ではなく、既存のATMを超える機能・サービス提供を目指すものである。今やコンビニエンスストア内にATMがあるのは当たり前である。同行は、次の段階としてコンビニATMを現金の入出金などに限らず社会全般のプラットフォーム化、新しいサービスインフラに位置付けていく。同行は、第4世代ATMのコンセプトをATMの機能を超える意味で「ATM⁺」（エーティーエム プラス）と命名した（図表5）。

（図表5）第4世代ATM「ATM⁺」



（備考）信金中央金庫 地域・中小企業研究所撮影

障害発生率をもう一段下げるため、機器が故障してから部品を交換するのではなく、故障前に部品交換を知らせるAIの予兆管理システムを導入した。これは、障害が発生する前にアラームの鳴る仕組みで、さらなる稼働率の向上に取り組んでいく。コスト面や環境負荷への低減も意識しており、例えばコスト面では第3世代ATMの内部カセットを流用、稼働率の向上によるメンテナンスコスト低減、消費電力の削減（現行比40%減）などを実現した。

（2）主な機能・サービス

ATM⁺の主な機能・サービスを挙げると、①顔認証技術による本人確認、②QRコードの読取り、③ブルートゥース技術によるワン・トゥ・ワン マーケティングなどがある。

① 顔認証による本人確認

ATM⁺は、顔認証の可能なカメラと本人確認書類が読取可能なスキャナーを搭載する。これを用いて、より強固なセキュリティを実現できるため、例えば金融分野では、キャッシュカード+暗証番号ではなく、顔認証で預金口座の入出金なども可能となる。また、現金の入出金時のセキュリティをキャッシュカード+暗証番号+顔認証にもできる。今後の利用拡大が期待される新サービスとして、顔認証・本人確認の仕組みを用いた口座開設がある。一般の金融機関が採用する非対面の口座開設方法より本人確認の確実性が高まると考えられる。

そこで同行は、2019年10月28日から12月20日まで同行の口座開設の実証実験を行った。実験場所は、丸の内の3台と新宿の2台の合計5台である。口座開設を希望する個人は、スマートフォンで必要事項を事前に入力し、その情報をもとに出力されたQRコードをATM⁺で読み取り、本人確認後、預金口座を開設できる。一定数の口座開設があり、期間中に具体的なクレームやトラブルなどが発生しなかったことから、実用化に向けた準備を詰めていく予定である。

② QRコードの読取り⁴

新たにQRコードの読取りが可能になり、決済などのサービスへの用途拡大を予定している。

③ ブルートゥース技術によるワン・トゥ・ワン マーケティング

ATMでの取引時にスマートフォンのブルートゥース機能がオンの状態であれば、専用クーポンなどのお得情報や利用明細票をスマートフォンに配信可能となる。従来は顧客へのクーポン一斉送信が主流だったが、セブン-イレブンと連携して顧客ごとに情報配信するワン・トゥ・ワン マーケティングを行えるようになる。

(3) 今後の計画

2019年11月現在の第4世代ATMの設置状況は50台程度だが、東京オリンピックが開催される2020年夏までに都内3,800台を入れ替える計画である(図表6)。その後、2024年度をメドに25,000台の全てを入れ替えていく。

口座開設実験の結果などを踏まえ、同サービスの全国展開、さらには顔認証・

(図表6) 設置計画

2019年9月	リリース 入替設置開始
2020年夏	都内入替完了 予定
2024年度	全台入替完了 予定

(備考) セブン銀行公表資料より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

⁴ QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

本人確認機能の他金融機関への提供も検討するほか、今後も機能・サービスの拡充に取り組んでいく。

おわりに

この10数年でコンビニエンスストア内に（コンビニ）ATMがあるのは当たり前となった。仮に手数料がかかっても、ちょっとした入出金、急ぎの入出金などにコンビニATMを利用する顧客層は相当数になると想像される。

フィンテックなどの技術発展を受け、近年、セブン銀行のコンビニATMの機能・サービス拡充が加速している。信用金庫は同行の施策などに注目しつつ、自金庫のATM戦略を再構築する必要がある。

以 上
とね かずゆき
(刀禰 和之)

本レポートのうち、意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。投資・施策実施等についてはご自身の判断によってください。

【バックナンバーのご案内：金融調査情報】

号 数	題 名	発行年月
2019-1	信用金庫の小売業、飲食業、宿泊業向け貸出動向	2019年4月
2019-2	信用金庫の若手職員育成事例④ -新宮信用金庫-	2019年5月
2019-3	福井信用金庫の2支店の平日休業について	2019年5月
2019-4	女性職員の活躍拡大への取組み -湘南信用金庫の制服廃止-	2019年7月
2019-5	高齢社会に対応した成年後見サポートへの取組み -沼津信用金庫の事例から考える信用金庫による地域貢献-	2019年7月
2019-6	SBI証券による地域銀行との共同店舗開設について	2019年8月
2019-7	人口減少・高齢社会の店舗展開 -おかやま信用金庫「内山下スクエア」-	2019年8月
2019-8	空知信用金庫の「健康企業宣言」	2019年8月
2019-9	信用金庫における純資産の充実動向とその意義について -配当政策等における地域銀行との比較-	2019年9月
2019-10	信用金庫の地区別貸出金増加率と業種別寄与度の動向	2019年9月
2019-11	信用金庫統計でみる2018年度と2019年度（7月まで）の動き	2019年9月
2019-12	信用金庫の事務合理化への取組み（その2） -経営戦略23-	2019年9月
2019-13	信用金庫における製造業への支援方法-支援体制の強化-	2019年9月
2019-14	信用金庫のATM効率化への取組み -経営戦略24-	2019年9月
2019-15	信用金庫の貸出金利回り改善への取組み -経営戦略25-	2019年11月
2019-16	信用金庫の手数料収入強化への取組み -経営戦略26-	2019年11月
2019-17	蒲郡信用金庫の未利用口座管理手数料	2019年11月
2019-18	城南信用金庫の職場風土改革への取組み「ABC実践ミーティング」	2019年11月
2019-19	金融検査マニュアル廃止後の自己査定・償却・引当の取扱い -「金融検査マニュアル廃止後の融資に関する検査・監督の考え方と進め方」(案)にかかる論点整理-	2019年11月
2019-20	信用金庫の生産性向上への取組み -住友生命WPIプロジェクト-	2019年11月
2019-21	枚方信用金庫の地方創生（巡リズム®）への取組み	2019年11月
2019-22	枚方信用金庫の創業支援への取組み	2019年11月
2019-23	信用金庫の本店・本部の建替え事例 -北門信用金庫・さわやか信用金庫-	2019年12月
2019-24	地域金融機関の副業の解禁（制度化）動向	2019年12月
2019-25	SDGsを原動力とした地域創生と地域金融機関（1）-1 -地方公共団体（鹿児島県大崎町）の事例から-	2019年12月
2019-26	最近の信用金庫の不動産業向け貸出動向	2020年1月
2019-27	地域金融機関の店舗戦略と今後の方向性	2020年1月

*バックナンバーの請求は信金中央金庫営業店にお申しつけください。

信金中央金庫地域・中小企業研究所 活動状況
(2020年1月実績)

○レポート等の発行状況

発行日	分類	通巻	タイトル
20.1.7	内外金利・為替見通し	2019-10	20年中、日銀は現行の金融政策を維持すると見込む
20.1.15	中小企業景況レポート	178	10~12月期業況は2四半期続けて低下 【特別調査：2020年（令和2年）の経営見通し】
20.1.24	金融調査情報	2019-26	最近の信用金庫の不動産業向け貸出動向
20.1.31	金融調査情報	2019-27	地域金融機関等の店舗戦略と今後の方向性
20.1.31	ニュース&トピックス	2019-67	中小企業の2020年の経営見通し、2年連続で悪化 —小規模企業中心に悲観的な見方広がる—
20.1.31	産業企業情報	2019-8	中小企業景気動向調査からみた2019年の回顧と2020年の展望 —調査員のコメントからわかる中小企業の生の声—

○講演等の実施状況

実施日	講演タイトル	主催	講演者等
20.1.6	地域経済に対する信用金庫の支援	静岡大学・ 静岡県信用金庫協会	鉢嶺実
20.1.15	2020年日本経済の展望 —環境変化に挑む中小企業の経営事例—	関信用金庫 日本輸出刃物工業組合	鉢嶺実
20.1.16	日本経済の今後の見通し	四国地区信用金庫協会	奥津智彦
20.1.17	日本経済の今後の見通し	愛媛信用金庫	奥津智彦
20.1.17	2020年の経済見通し	埼玉縣信用金庫	角田匠
20.1.18	国内経済の現状と見通し	愛媛信用金庫	奥津智彦
20.1.22	今年の経済見通し	大阪彩都総合研究所	角田匠
20.1.23	環境変化に挑む！中小企業の経営事例	菊信会・岐阜信用金庫 (名古屋支店)	鉢嶺実
20.1.25	消費税増税の影響と東京五輪後の経済展望	蒲郡信用金庫	角田匠
20.1.28	信用金庫を取り巻く経営環境と今後の成長戦略	中日信用金庫	松崎英一

<信金中央金庫 地域・中小企業研究所 お問い合わせ先>

〒103-0028 東京都中央区八重洲1丁目3番7号

TEL: 03-5202-7671 (ダイヤルイン) FAX: 03-3278-7048

e-mail: s1000790@FaceToFace.ne.jp

URL <https://www.shinkin-central-bank.jp/> (信金中央金庫)

<https://www.scbri.jp/> (地域・中小企業研究所)